

図書館蔵書に対する評価は、その量よりも質にあることは言うまでもないが、その質的条件の中にどのような稀観本（きこうぼん）

本館

稀

観

本

所蔵

世間に流布されていない珍しい書物が収蔵されているかがある。については専門の立場から本館所蔵の稀観本を紹介することとした。

の中から

西洋服飾稀観書(21)

レースに関する^{きこうしょ}稀観書（下）

講師（西洋服装史担当） 富 樫 慧 子

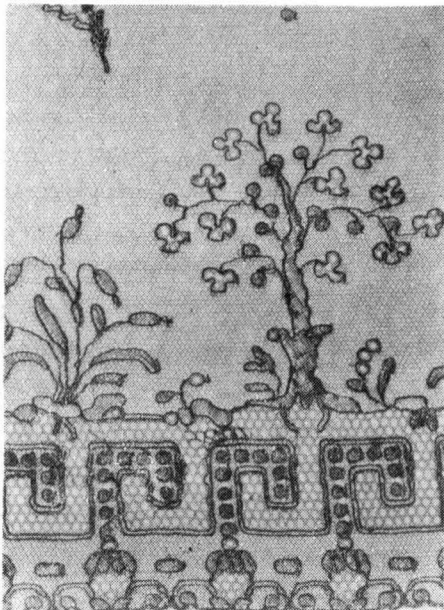
服飾や手芸に見られる華やかさの度合は、国力や文化の盛衰とも密に関連しているようである。ルネサンス文化の隆盛と共に進展したイタリアのレースは、17世紀にはフランスおよびフランドルに引き継がれ、やがてそれぞれの生産地独自の技法と様式を確立して行ったが、この傾向はイギリスにまで及んだ。そして手工レースの最終期、19世紀に、イギリスとフランスはヨーロッパ全体のレース産業で中心的役割を果たしていた。それだけに、前回述べた19世紀末から20世紀初頭までの期間にこの2国で刊行された文献は質量ともに群を抜いている。今回はこの両国の代表的著作を数点ずつ紹介しよう。

〔753.3. S〕 Seguin, Joseph ; La Dentelle, histoire, description, fabrication, bibliographie. Rothschild, Paris, 1875. セグイン著「レース、その歴史、記録、製造、文献」。縦40cm,横29cmの背皮の重厚な装丁の本書はいくつかの服飾関係専門の文献目録では取り上げられておらず、レース史研究書の

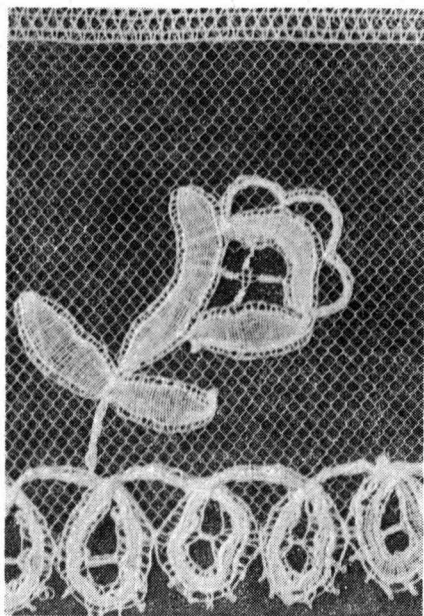
参考文献目録にも、あまり見られない。しかしレースの起源、レースの2大技法のそれぞれの歴史、いくつかの生産地の特色、レース産業の状況などを扱った内容は、決して広いとは言えないが深く、その著述は堅実である。なかでもフランスのポビン・レースに重点がおかれ、そのパターン・ブック、文字史料との照合、奢侈禁令などの史料の紹介も豊かである。また白い麻糸レースだけでなく、黒や淡黄色の絹糸レースに多くの頁がさかれているのは、1870年代の流行の反映でもあろう。刊行当時の技術による50枚の写真図版は今日のそれとは比ぶべくもないが、いずれも典型的で高度なデザインが選ばれている。

〔753.3. H〕 Hénon, Henri ; L'Industrie des Tulle et Dentelle Mécaniques dans le Pas-de-Calais, 1815—1900. Belin Frères, Paris, 1900. エノン著「ドーバー海峡に面したカレー市における1815年から1900年までの機械製チュールとレース」。

① 黒絹のシャンティール・レース。一八世紀末。セグイン著「レース」より。一八世紀末に流行した黒絹のレースは、一九世紀後半に復活した。本書には五点の図版が扱われている。



② ポビン・レースの実物。ジャクスン著「手工レースの歴史」より。最高度の技術を誇ったブリュッセルの手法を示している。



カレー市の網地やレースの機械生産の年代史である。著者が「カレー市チュール、レース製造業者組合長、および1900年パリ万国博覧会専門委員」の肩書を持つだけに、内容は一生産地に関する単なるデータの集積の域を出てはいないが、初期機械レースの発展の過程を知る上では、見逃せない文献と言える。真紅の機械製レースを張った背の装丁が、私には印象的である。

〔753.3. P〕 Palliser, Bury. History of Lace. Sampson Low, Marston & Company, London, first ed. 1868, rep. 1902.

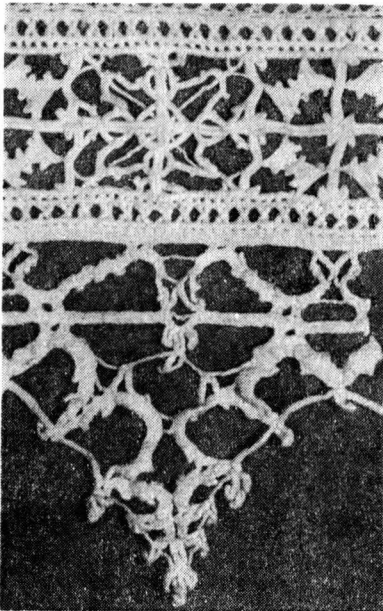
イギリスでのレース史著作の草分け的名著である。本学のもは初版ではなく、1902年の改訂増補された第4版であるが、初版には無かった註や用語解説索引が加わっている。イタリア、フランス、フランドル、イギリスは言うに及ばず、そのほかの西洋、中近東、東洋にまでいたる広範囲のレース産地の綿密なデータに基づいた著述は、この北国の女性研究家の姿を偲ばせる。その着実さ、著者自身の遍歴によって入手したデータの豊かさにおいて、他の追隨を許さない。写真版の図版も勿論であるが、イラストによる豊富な挿図は多様なレースの種別の恰好の手掛りであり、ために後の多くの研究者が引用し、模倣する所となった。1892年には仏語版も訳出され、本学の書棚には白い簡素で上品な英語版と共

に、赤い革装に金文字の瀟洒な仏語版も一緒に並んでいる。

〔753.3. J〕 Jackson, Emily Nevill ; A History of Hand-made Lace. L. Upcott Gill, London, 1900. ジャクソン著「手工レースの歴史」。実物の小片を12点貼布した頁を含む革装の豪華本と、写真版だけのハンディな普及版が同年に出版されたが、本学図書館にはこの両者が揃っており、書架番号は同一である。実物は勿論、発行当時の製作品であり、ごく小さな断片ではあるが、拡大された写真からは感じ取れない手工レースの繊細さや感触を充分に物語ってくれる。また写真の図版も大変美しい。内容はさきのパリサーの著作を参考にしたと思われる部分が少くないが、パリサーほどの細かいデータよりも、むしろ文学や逸話をもとにしたエッセイ風著述が特色である。そして、機械レースに対して手工レースを高く評価し、その衰退を惜しむ著者の感情が満ち溢れている。農民の手による民俗的レース、レースの手入れ法などの章は他書に類例がなく、興味深い。また巻末のレースの専門用語辞典は、レース史研究者の好個の手引きにもなっている。

註)〔753.3. P〕 Palliser, Mme. Bury ; Histoire de la Dentelle. Librairie de Firmin-didot, Paris, 1892.

⑧ ニードルポイント・レースの実物。ジャクソン著「手工レースの歴史」より。初期ニードルポイント・レースの様式を残したスペインのレース。



④ レースを作る図。パリサー著「レース史」より。一六世紀の版画からとったイラスト。左より、ポピン・レース、ネット、糸紡ぎ、ニードルポイント・レース作りを示している。

